

その
3

ザンビア

干ばつと洪水が頻発

ザンビアでは今年、例年になく渇水に見舞われている。一方で、世界三大瀑布ビクトリアフォールズに注ぐザンベジ川では、水位が過去40年間で最大に。洪水が発生している川もあるという。

首都ルサカ派遣隊員

2008年10月21日 / 09年1月31日 / 5月11日着



その
4

マレーシア

実のなる時期が変化

マレーシアのサバ州では、植物の開花やフルーツの結実の時期がずれてきている。毎年人々の目を楽しませてきた世界最大のラン「ジャイアント・オーキッド」も、今年は花を咲かせる気配がないという。

新崎聖(環境教育)

2009年5月12日着



その
5

モルディブ

海岸線の侵食リスクが高まる

年中常夏のモルディブでは、海岸線の後退が進んでいるという。温暖化との関係は不明だが、今後、温暖化により海面が上昇すれば、海岸線の侵食がさらに進行することが懸念されている。

藤田理生(小学校教諭)

2009年7月11日着



その
1

モンゴル

雪が減り暖冬に

冬の寒さが厳しいモンゴルでは、この時期の雪が春の訪れとともに溶け出し、家畜のえさとなる緑豊かな夏の草原を生む。にもかかわらず、このところ暖冬が続き、降雪量が減っているという。

高橋梓(PCインストラクター) / 水澤秀幸(義護)

2009年5月17日 / 8月7日着



聞こえてきた 地球の悲鳴

JICAボランティアからの報告

「去年の冬は例年になく豪雪だった」「夏の高温でコメの生育に被害が出ている」「熱中症患者が増えている」「これまで経験したことのない局地的な集中豪雨に見舞われた」

みんな感じているはず。ここ数年の間に日本で起きているこうした気象変化が、気候変動によるものかもしれないと。

「温暖化には疑い余地がない」。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)がそう断定したのは2007年。しかも、温暖化を招いているのは私たち人間でもある。人々に豊かさをもたらした社会・経済の発展によって温室効果ガスの排出量が増加し、皮肉にもそれが私たちに深刻な被害を及ぼそうとしているのだ。

このまま温暖化が進むと地球はどうなってしまうのだろうか。干ばつや洪水、熱波、雪崩、台風などが多発するほか、

砂漠化や海面上昇、氷河の後退なども急速に進行することが予測されている。また、気候が亜熱帯に近づくことにより、マラリアやデング熱、黄熱病、コレラといった感染症が増加。同時に感染症の媒介となる蚊の繁殖地域が広がり、さらなる悪循環の引き金にもなるという。

温暖化による被害は日本以上に、社会基盤が脆弱で資金や技術の乏しい開発途上国で顕著に現れている。しかしそうした実態は、これまで日本人の言葉で日本人に向けて語られることは決して多くなかった。

いま聞こえてきた地球の悲鳴—

開発途上国で現地の生活に溶け込み、そこに暮らす人々とともに活動するJICAボランティアから、彼らだからこそ知り得るその貴重な証言が届けられた。

編集協力：青年海外協力隊愛知県OB会
協力：国際環境 NGO[FoE Japan]

*JICAボランティアからの最新報告は、ホームページ(<http://jocv.main.jp/aichi/>)を参照。



その
2

ケニア

長期化する乾期

ケニアでは、まとまった雨が降らない日が続いている。通常なら雨期の5月も、昨年はずか1度の雨。雨期と乾期の境が分かりづらく、水不足も深刻化しているそう。

新向井秀廣(青少年活動)

2008年9月27日 / 10月11日着

